信州大学附属図書館医学部図書館の 地域医療支援活動について

A community medical care at the Medical Library of Shinshu University

石坂 憲司¹

ISHIZAKA Kenji¹

1 信州大学附属図書館医学部図書館（〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1）Tel：0263-37-2584 E-mail：jja0101@shinshu-u.ac.jp
1 Medical Library of Shinshu University Library (3-1-1 Asahi Matsumoto-shi, Nagano 390-8621)

原稿受理（2009-05-15）

（情報管理 52(4), 207-215）

著者抄録

信州大学附属図書館医学部図書館（当館）では、地域医療支援活動の一環として、平成20年6月より長野県内の信州大学研修医・研修生派遣病院に対し、次の新サービスを開始した。（1）JDream II のコンソーシアム契約による特別価格での提供、（2）Web申し込み方式による文献複写物の提供。次に、平成21年5月より信州大学医学部附属病院内に患者図書室が開設され、当館からは医学系図書の受入、各種情報提供を行うこととなった。本稿では、新サービスの開始に至る経緯と現状、および信州大学医学部附属病院患者図書室の概略を報告する。これらの活動により、関連病院の医学文献の入手、および病院患者に対する医学文献提供が格段に向上するものと期待される。

キーワード

図書館間相互協力，JDream II，医学図書館，地域医療支援，患者図書室，医学情報

1. はじめに

信州大学附属図書館医学部図書館（以下、当館）では、地域医療支援活動の一環として、次の取り組みを行っている。

平成20年6月より長野県内の信州大学研修医・研修生派遣病院（以下、関連病院）に対し、次の新サービスを開始した。

- 1) JDream II のコンソーシアム契約
 - 2) Web申し込み方式による文献複写提供
- 次に、平成21年5月より信州大学医学部附属病院

内に患者図書室が開設され、当館からは医学関係図書の受入、各種情報提供を行う。

本稿では、新サービスの開始に至る経緯と現状、および信州大学医学部附属病院患者図書室の概略を報告する。

2. JDream II のコンソーシアム契約

2.1 JDream II 導入の経緯

初めに、このたびコンソーシアム契約を推進した（独）科学技術振興機構（以下、JST）が提供する

JDream II のデータベース一覧を表1に示す。

この中で、特にJMEDPlus, MEDLINE, 医学・薬学予稿集全文データベースといったデータベースが関連病院にとって利用度の高いデータベースと思われる。また、抄録からの全文リンクを行っており、医学系ではメディカルオンラインを契約していれば、JDream II の検索結果からたどり着くことができる。

特定非営利活動法人 日本医学図書館協会では、毎年研修活動の一環として、医学図書館員基礎研修会、医学図書館研究会・継続教育コース等を開催している。

平成19年8月、信州大学（以下、本学）にて第14回医学図書館研究会・継続教育コースが開催され、研究会において高知大学におけるJDream II コンソーシアム導入の事例が発表された。高知大学の場合、主に大学側がJDream II の利用料を支払い、臨床研修協力病院と共同利用している。この研究会には、JSTの職員が参加されており、本学に対してJDream II コンソーシアム導入の提案がされた。

表1 JDream II データベース一覧
<http://pr.jst.go.jp/jdream2/database.html>
* 2009年4月現在

データベース名	収録情報	収録年代 (更新頻度)	収録件数*	年間収録件数
JSTPlus	科学技術(医学を含む)全分野に関する文献情報。世界50カ国以上の情報を含む。 収録誌一覧を公開中	1981 - (月4回)	約2,071万件	約70万件
JST7580	科学技術全分野に関する文献情報。世界50カ国以上の情報を含む。	1975 - 1980 (更新無し)	約220万件	更新無し
JMEDPlus	日本国内発行の資料から医学、薬学、歯科学、看護学、生物科学、獣医学等に関する文献情報を収録。 収録誌一覧を公開中	1981 - (月4回)	約491万件	約37万件
JICHEM	化学物質の商品名、治験番号、係名、化合物群番号、CAS登録番号、分子式などの情報。	(月1回)	約268万件	-
MEDLINE	米国立医学図書館(NLM: National Library of Medicine)が作成・提供する医学およびその関連領域を対象とする文献情報。 収録誌一覧を公開中 【MEDLINEファイルで利用にあたっての注意事項】	1950 - (週1回)	約1,756万件	約50万件
JSTChina	中国国内で発行される科学技術資料のうち、JSTが厳選した約170誌に掲載された文献情報。 収録誌一覧を公開中	1981 - (月2回)	約29万件	約10万件
JSTPatM	国内発行の公開特許公報(技術情報としての)と、科学技術文献情報も同時に検索。	特許: 1993 - (月1回) 文献: 1991 - (月1回)	特許: 約560万件 文献: 約2,391万件	特許: 約30万件 文献: 約100万件
医学・薬学予稿集全文データベース	医学・薬学・看護学系学会より許諾を頂いた予稿集の全文をPDF化。 検索機能が付与。 学会登録情報公開中 【医学・薬学予稿集全文DBファイルで利用にあたっての注意事項】	1999 - (月4回)	記事: 約100万件 予稿集: 5,277タイトル	約11~12万件
JAPICDOC	日本医薬情報センターが作成・提供する医薬品の有効性、安全性に関する文献情報	1983 - (月1回)	約35万件	-
KENSHU-J (研修JSTPlus)	JSTPlusファイルの研修用ファイル。	-	-	-
KENSHU-JMED (研修JMEDPlus)	JMEDPlusファイルの研修用ファイル。	-	-	-
総収録件数			約4,995万件	-

JDream II 導入により関連病院にとって有益な医学文献情報入手の機会を得ることは承知していたが、予算の確保（継続的な確保を含め）を考慮すると、高知大学と同様の方式により本学にて導入することは非常に困難である、といった旨の回答をした。

詳細は3.1にて後述するが、長野県内の病院図書館間の活動、県内病院における信州大学医学部附属病院（以下、信大病院）の立場などを話す中で、本学、県内病院、JSTの3者がうまく共同歩調を取ることができないか、模索した。

主に、電話とメールにより、何度か当館とJSTの間で打合せを行い、最終的に平成20年2月、JSTより本学はJDream II の本学利用料のみ負担し、関連病院は通常価格より安価に導入できる提案がされた。このことを受けて、本学医学部にて検討の結果、当館が中心となり積極的に関連病院へのJDream II コンソーシアムの参加を推進することにした。

2.2 利用講習会とJDream II トライアル

平成20年3月、関連病院に対し、利用講習会、およびJDream II トライアルの実施について広報を行った。

2.2.1 利用講習会

本学は、長野県内各地に5キャンパスを有する。その特性を利用し、平成20年4月、長野、松本、上田、南箕輪の4キャンパスで5回の利用講習会を実施した。講師はJSTおよび代理店から招請した。1回あたり1時間程度の講習を行い、JDream II の基本的な検索方法、医中誌Web版との違いについて説明した。

本学としてもJDream II は初めて導入することもあり、学内者および関連病院担当者を対象とした。全部で108人の参加があり、その内、関連病院からの参加者は12人であった。

2.2.2 JDream II トライアル

平成20年4月～5月の間、JDream II トライアルを

実施した。27病院の参加があり、多数の利用があったとJSTから報告があった。

2.3 JDream II コンソーシアム契約の現状

高知大学の場合、当初すべて大学側で経費負担していたが、現在は参加病院も参加費として一部負担している¹⁾。

本学の場合は、JSTおよび代理店との間で、当館、関連病院側とも、各々独立契約とした。通常、病院がJDream IIを導入する際の料金（病院等医療機関向け固定料金）²⁾は、年間30万円（同時アクセス3）だが、今回のコンソーシアムの提案は、次の2通りである。

- ・年間10万円（同時アクセス1）
- ・年間15万円（同時アクセス2）

このことにより、関連病院はJDream IIを低価格で導入できることとなった。

なお、20年度は13病院がコンソーシアムに参加した。

3. Web申し込み方式による文献複写提供

3.1 新サービス導入の背景

JDream II コンソーシアム参加の13病院、および19年度以前からの通常契約の3病院に対して、要望があればWeb申し込み方式による文献複写提供を行うこととした。この文献複写提供は、当館の所蔵資料はもとより、当館に所蔵していない資料も他館から取寄せ提供するものである。

JDream II 導入の直接的な契機は、前述のとおりだが、このWeb申し込み方式による文献複写提供と合わせた新サービス導入の背景をたどってみる。

3.1.1 長野県内の病院図書館間の連携

長野県は、北海道、岩手県、福島県に次ぐ面積を持つ広い県である。周囲は山脈に囲まれ、各盆地間も急峻な峠を行き来しなければならず、古来より長野県の地形は地域交流の妨げになっている。その地

形の影響もあったと推察されるが、県内の病院図書館間の交流は少なかった。しかし、近年始まった病院機能評価の受審等もあり、図書館関係者の中では、図書館サービスの拡大・向上を目指し、文献複写入手を含めた図書館間のネットワークの必要性についての気運が高まっていた。

そのような中、「長野県医学図書ネットワーク」は、平成17年12月に、病院図書室等の充実と向上に努め、医療情報活動を通じて地域医療の発展に献身することを目的に発足した。会員は、当館を含め当初病院関係者13病院14名、大学図書館2館2名の計15施設16名で、平成20年4月には18施設20名となった。これらの病院は地域中核病院であり、本学の研修医や医学部学生の研修先病院として、本学とも関係があった。

当ネットワークの発足により、情報交換の場が作られた。研修会も年2回のペースで開催され、顔の見えるネットワークとなり、業務の問題点を相談しあえる仲間、スキルアップの場として、大いに活用されている³⁾。

この活動により、県内でのILL（図書館間相互貸借）も活発となった。特に平成19年度から本学で開始した料金後納制度により、文献提供に要する期間が従前の約2週間から2日程度と短縮された。また、本学で契約している多くの電子ジャーナルが利用提供でき、文献入手が格段に向上し、結果、多くの病院図書館から依頼が来るようになった。

3.1.2 卒後臨床研修制度

長野県の卒後臨床研修制度は、信大病院を核として、県内の地域中核病院と連携している。2年の研修期間のうち1年を信大病院、残り1年を関連病院で行っている。本学と関連病院との電子ジャーナル、データベース等の情報提供環境の差が大きく、改善を求める声が上がっていた。

3.1.3 料金後納制度

主に大学図書館では、自館に利用者の要求する資料が無い場合、国立情報学研究所のNACSIS-ILLという、図書館間相互貸借サービス（文献複写、および図書の貸借の依頼・受付）のシステムを用い、利用者に資料提供を行っている。

本学では、国立大学法人化後の平成16年度～18年度の間、NACSIS-ILLの非相殺参加館（主に病院、公共図書館等）への料金決済は、現金書留送付による前払い方式としていた。

当館には県内外の病院から後払い方式への強い要望が寄せられており、平成19年度から料金後納制度を実施することとした。

このことにより、病院側に対し、文献複写物の迅速な提供、支払処理の簡略化等のメリットが生じた。

詳細は3.3にて後述するが、非相殺参加館から当館に申し込みのあった文献複写受付数が、飛躍的に増加した。

3.2 Web申し込み方式による文献複写提供の現状

3.2.1 Web申し込み方式の概略

大分大学医学図書館は、本学のWeb申し込み方式による文献複写提供と同様のサービスを、試行サービスを経て、平成20年1月より本番実施している。

本学では、料金後納制度による文献複写物の提供の実績を考慮し、試行運用をしなくても大きな混乱がないと判断し、平成20年6月から本番運用とした。ただし、業務量の予測が甚だ困難であり、当館はJDream II 契約病院を対象とした。

申し込みから文献提供までの流れを図1に示す。なお、大分大学では、個人単位による利用者IDの発行、料金請求を前払い・後払いの併用、電子ジャーナルを文献複写のサービス対象外としている⁴⁾。本学では、病院単位によるIDの発行、料金請求は後払いのみ、電子ジャーナルも複写の対象（ILL可と契約されているもの）としている点が、大きな相違である。

図1 申し込みから文献提供の流れ図

3.2.2 Webによる申し込み

現在、当館では、通常为非相殺参加館からの文献複写の受付は、Faxにより行っているが、書誌事項を目視の上、申し込みデータを入力し、所蔵確認を行っている。このたびWeb方式を採用したことにより、容易な所蔵確認、文献複写依頼時に申し込みデータを流用できるといったメリットがある。

初めに、本サービスを希望する病院は、本サービスの利用申請書を提出する。利用申請書受理後、当館では、NTTデータの図書館システムであるNALISによる利用者登録を行い、申請病院に対し、承認書の発行を行う。

次に、すべて後払い方式としているので、文献複写料金後納許可の申請をする必要がある。希望する病院からは申請を行い、当館から承認書を発行している。

文献複写の入手のために、毎回行う処理は、病院側からNALISのWeb申し込み機能を使い、文献複写の申し込みを行う。

病院側から複写依頼があると、初めに当館の文献複写依頼担当は、当該資料の所蔵確認を行う。当館所蔵の場合は、NALISローカル機能を用いて当館自身に依頼を行い、文献複写受付担当が現物の複写作業を行う。当館に所蔵している場合、1件あたりの

請求料金は、1枚35円＋依頼病院までの送料である。

当館に所蔵が無い場合は、NALISによる学外文献複写依頼機能を用い、他所蔵館より文献を入手する。この場合の依頼病院への請求料金は、他館から入手するために要した料金に、当館から依頼病院までの送料を加えた実費であり、手数料は請求していない。

当館では、平成19年9月より、依頼病院に文献複写物を送付する際、ヤマト運輸のクロネコメール便を利用している。A4サイズ、厚さ1cmまでであれば、80円（速達の場合、100円加算）であり、25グラムを超過した際の郵送と比べると安価である。

四半期ごとに依頼病院からの依頼データの集計を行い、それを元に本学から依頼病院に対し、請求書を発行している。

依頼病院にとって、文献複写料金後納許可の申請の際に若干期間を要するが、その後は現金による料金前払いと比べてかなり早く文献を入手することができる。

3.2.3 処理件数

平成20年6月より新サービスを開始したが、20年7月より実際の文献複写処理が発生した。平成20年7月～21年3月の間、6病院が参加し、自館所蔵による処理件数が268件、他館依頼による処理件数が258件、合計526件発生した。

図2 文献複写処理件数（平成20年7月～21年3月）

月別の件数を図2に示す。毎月、60件前後の安定した数値となっている。

利用病院からは、文献をより早く入手したい、依頼した文献の書誌、金額等の電子データを入手したいといった要望がある。

3.3 非相殺参加館、および県内機関からの文献複写処理

平成16～20年度の間、非相殺参加館から申し込みのあった文献複写の処理件数、および県内機関からの件数を表2に示す。

全体件数の伸びは、表2のとおり平成19、20年度は、前年度比の約3倍程度に増加しているが、県内機関からの件数に注視してみる。

17年度から18年度にかけて、県内機関からの依頼による処理件数は、31件から140件に増加した。この要因は、「長野県医学図書ネットワーク」の発足によるものと考えられる。

18年度から19年度にかけての処理件数は、140件から450件と約3.2倍に増加している。19年度は、「長野県医学図書ネットワーク」の活動が浸透し、料金後納制度を開始したことが大幅な数値の上昇に反映している。

そして、19年度から20年度にかけての処理件数は、450件から1,225件と約2.7倍の増加となった。現金前払いのみの運用をしていた16～18年度の間の平均値（60件）と比べると、約20倍と驚異的な数値の伸びとなっている。これは、さらなる新サービスの実施による効果と言える。

20年度から始めた新サービスは、前述のとおり、JDream II のコンソーシアム契約の推進と Web 申し

表2 非相殺参加館からの文献複写受付数（平成16～20年度）
＊カッコ内は県内機関からの処理件数で、合計の内数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
前払	122	171	212	19	41
後払				555	1,378
合計	122	171	212	574	1,419
（県内）	(9)	(31)	(140)	(450)	(1,225)

込み方式による文献複写提供によるものである。すなわち、JDream II による文献検索をした結果、原文献が必要な場合、当館の所蔵の有無に関係なく、申し込みをして全文を入手する、といったスタイルが確立されたわけである。

このことを考慮すると、JDream II を関連病院が導入したことにより、医学関係文献の良質な検索ができ、必要な文献がすぐ見つかる、といった大きな効果があったと言える。

飛躍的な文献複写の増加は、地域医療支援の向上に寄与していると考えられる。

4. 信州大学医学部附属病院患者図書室の概略

4.1 概要

信州大学医学部附属病院患者図書室（愛称、「こまき図書室」、以下、当院図書室）は、平成21年5月7日、信大病院の新外来診療棟のオープンと同日に開室した。

当院図書室は、信大病院の新外来診療棟1階に設けられたが、国立大学法人である信大病院と自治体である松本市との業務連携の上に成立しているユニークな図書室である。

図3に信大病院と松本市との業務連携の概要図を示す。

図3 信大病院と松本市の業務連携の概要図

4.2 設置の経緯

本学は教育、研究、国際交流とともに地域貢献を目標の一つに掲げており、地域貢献に対して大学をあげて傾注している。信大病院においても、『地域における医療と福祉の向上に寄与する』ことを目標のひとつとしている。

また、信大病院は特定機能病院、高度救命救急センター等、さまざまな指定病院となっている。平成18年8月、信大病院は都道府県がん診療連携拠点病院に指定されたが、患者図書室は設置されていなかった。そこで、新外来診療棟の建築を機に、当院図書室の設置に向けて、病院長の指示のもと信大病院医療福祉支援センター（以下、センター）が担当となり、開室の準備を開始した。

平成19年、センターと当館との間で、当院図書室の位置づけについて何度か打合せを行った。当館の分室としての運用は、人員、予算的に極めて困難であり、また配架・貸出すべきと判断した図書の範囲は、医学的な専門書から、入院患者向けの小説などの一般図書と、多岐にわたる。松本市立図書館（以下、市立図書館）では団体貸出用図書を常備しており、それを借用し当院図書室に一般図書を配架・貸出するといった提案がなされた。ところが、その提案を充足するには、信大病院で購入する医学的な専門書と市立図書館の一般図書を同時に管理・運用する必要がある。

最終的には、信大病院購入図書を市立図書館の図書館システムへ登録することにより、当院図書室のシステムの一元化を図ることができる見通しが立ち、市立図書館との連携を考慮した運用体制の提案が図られた⁵⁾。

平成20年1月、本学から松本市長に陳情し、市立図書館との連携の基本合意がなされた。

同年7月、本学内にて病院長、センター長、松本市中央図書館長の協議により、経費負担、協定書等を決定した。

そして、平成21年3月23日、松本市と信大病院の

間で、『松本市中央図書館及び信州大学医学部附属病院患者図書室における図書館業務の連携に関する協定書』（以下、『協定書』）が締結された。

4.3 目的

図書室の設置の目的は、松本市、および隣接する波田町により構成されている図書館ネットワークシステムにより、松本市、本学が行う図書館業務を連携して実施し、入院患者、外来患者及びこれら患者に関係する市民等の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することである（『協定書』より）。

4.4 組織・開館時間

当院図書室は、次の職員の組織からなる。

1. 患者図書室長（信大病院長）
2. 副患者図書室長（センター長）
3. 図書館司書2名（センター所属職員）

図書館司書2名については、9時～13時勤務と12時30分～16時30分勤務の2交代制である。

開館時間は、平日午前9時15分から午後4時までである。

4.5 資料・図書館システム

資料は、市立図書館から3,000冊、本学から1,000

冊の合計4,000冊を準備する。市立図書館側からは団体貸出による一般図書であり、定期的に入れ替えを行う。本学からは医療・看護関係図書であるが、18年度から準備を行ってきており、20年度末現在で約600冊程度用意することができた。当院図書室の内部の様子を図4、図5に示す（2009年4月30日撮影）。

図書館システムは、市立図書館で運用している業務システムを使用している。

本学提供の図書は、市立図書館資料と資料ラベル等同様の装備をし、市立図書館の蔵書データベースに登録している。なお、本学の図書資産であるので、図書の内側には、本学資料を明示した資料ラベルを貼付し、NALISの蔵書データベースにも登録している。

このことにより、市立図書館提供の図書を加えた、室内配架の約4,000冊の図書を市立図書館の利用者カードを使って、貸出することができる。辞書、事典類といった参考図書については、貸出はできない。

市立図書館は、中央図書館をはじめ全部で9館から構成されており、約96万冊の蔵書がある。

当院図書室では、市立図書館の分館的機能を有しており、市立図書館からの図書の取寄せ、返却といったこともできる。

このことにより、入院患者らが一般図書をはじめ、

図4 当院図書室（書架とフロアー）

図5 当院図書室（利用者用PCと閲覧席）

病気や健康，看護に関する基本的な知識を得ることができ，患者サービスの大きな向上が見込まれる。

4.6 当館との連携

当館からは，当院図書室に対し，信大側の図書の発注・受入，選書補助の相談等の業務の協力を行っているほか，当院図書室利用者が，より専門的な図書を求める場合，貸出を含め対応する予定である。

なお，当館が行っている発注・受入の手順は次の通りである。

- 1) センター職員による選書
- 2) 図書館流通センター（以下，TRC）のTOOLi（ツール アイ）を利用した発注処理
- 3) 当館の図書館システムNALISによる受入処理
*TRCからは，請求ラベル，資料ラベル等が装備済みで納品
- 4) 本学の財務会計システムによる支払処理
- 5) 当館からセンターへ図書の引き渡し

5. 今後の展望と課題

5.1 JDream II のコンソーシアム契約

平成20年度末に，21年度の参加に向けて，関連病院に広報した。その結果，21年度は，前年度と比べて2病院増え，15病院のコンソーシアム契約となった。微増ではあるが，拡大したことは事実であり，少しずつ関連病院にJDream II を導入するメリットが浸透してきたと言える。

ただ，今回の広報活動の中で，JDream II がどのようなデータベースか知らない病院担当者もあり，もう一度広報のあり方を見直す必要があると考えている。

5.2 Web申し込み方式による文献複写提供

前述のように処理件数が増大しており，当館の運

用体制を考慮し，当面サービス対象はJDream II 契約病院のままとした。

次の段階は，JDream II 契約病院をサービス対象という制限をなくし，関連病院すべてを対象にすべく検討したい。

業務の最適化を図るために，文献複写全体の処理方法の見直しも必要だが，場合によっては，当館職員の業務分担，あるいは増員といったことも視野に入れなければならない。当館の業務全体に非常に大きな影響を持つサービスであり，慎重を期したい。

5.3 当院図書室

現段階では，どのような課題が発生するのか不明だが，まずは着実な運用が第一と思われる。

当面は，運用内規をより綿密なものにしていく必要があるが，運用状況を勘案して適宜対応していくことになる。

今後，当館としてもできる限りフォローしていきたいと考えている。

6. おわりに

当館の新サービスを開始したことによる，関連病院に対する地域支援医療活動は，地域医療の学術情報提供の質的向上を図るためのインフラ整備を提供したと言える。

また，当館の当院図書室に対する連携は，新たな地域医療支援活動になりうると考えている。

最後に，本稿の主旨と少し離れるが，本学が20年度より導入したJDream II は，学内利用者，特に学生に大きな反響があった。医学部はもとより，理工系学部の利用が多く，全キャンパスで年間約20,600回の検索回数があった。学内利用者の教育・研究活動にも役立てた意義は大きい。

ここに関係各位に謝意を表する。

参考文献

- 1) 田所千峰子. 臨床研修協力病院とのデータベース共同利用：高知大学総合情報センター（図書館）医学部分館の例. 医学図書館. 2007, vol. 54, no. 1, p. 69-72.
- 2) 科学技術振興機構. “病院等医療機関向け固定料金”. <http://pr.JST.go.jp/pricelist/jdream2-3.html>, (参照 2009-04-30).
- 3) 前澤好広. 長野県でのネットワーク活動について. 病院図書館. 2006, vol. 26, no. 2, p. 54-55.
- 4) 山田哲敬. 大分大学『医学文献デリバリーサービス』による地域貢献への試み. 医学図書館. 2008, vol. 55, no. 3, p. 224-228.
- 5) 折井匡. 信州大学附属病院に市立図書館の機能を持った患者図書室ができます. 全国患者図書サービス連絡会会報. 2009, vol. 15, no. 4, p. 65-68.

Author Abstract

In June 2008, the Medical Library of Shinshu University started on the following two services called the New Service toward hospitals in Nagano accepting residents of Shinshu University as a support to the community medical care; 1.JDream II service at the special price as a consortium, 2.Document delivery service by applying through the internet. In May 2009, the hospital library has been established in the Shinshu University Hospital. Our services for them are purchasing medical materials and giving various information. Here, I report the course and the present of the new service and also an outline of the Shinshu University Hospital Library. I expect that these services improve the document delivery service for the related hospitals and for the patient.

Key words

library cooperation, JDream II, medical library, community medical care, patients' library, medical information